UrbanDesignLab.Magazine

秋に新たな風が吹く。 Autumn with the New Wind!

東京大学都市デザイン研究室
工学部都市工学科／工学系研究科都市工学専攻
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/

編集長：松田 季詩子
編集委員：神谷 安里沙　田中 雄大　中村 慎吾
岡山 益明　但馬 慎也　中戸 翔太郎

2017.10.31 vol.258

大学院演習、復活！

Urban Design Studio for Graduate Students Re-Starts!

text_NAKADO/M1

秋学期が本格的に始まりました。学事歴としてはまだまだ道半ばですが、10 月からは新しいことがいくつか始動しています。そのうちの一つが大学院演習、通称スタジオ。都市工学専攻の大学院生を対象とした、実際の都市をフィールドに行われるこのスタジオは今年の秋から復活しました。都市デザイン研究室からは中島直人准教授が高島平の指導教員として、M2 三文字が本郷の TA として、それぞれ携わっています。また、マガジン編集部 M1 の 3 名全員が、このスタジオに参加しています。久方ぶりのスタジオ、担当教員の 3 人に期待や思惑を伺うとともに、参加する編集部 M1 の意気込みをまとめました。開催者と参加者、双方の視点から迫ってみたいと思います。

東京既成市街地の再構築／再始動した大学院演習

西村幸夫先生が教授に着任した頃、当時の助教授クラスの先生方（大方潤一郎先生・北沢猛先生・小泉先生）により開始。アメリカやイギリス・オランダなど諸外国のプランニングスクールから着想して、演習を大学院で充実させることを目指した。その後一度演習は凍結されたが、中島先生や村山先生といった若手の先生方が都市工学に戻ってきたタイミングで小泉先生が再度大学院演習の立ち上げを提案。今年が復活 1 年目となった。

テーマは、東京の既成市街地の再構築。対象地区は、農地が散逸的に残るスプロール市街地＝**西東京市**、都市内部の高齢化の進む大規模団地＝**高島平団地**、歴史的資源が開発のもと消失しつつある都心近接住宅地＝**本郷地区**。担当教員各々が実践の面から強く関わりのある地区であるため、提案が実際のまちづくりや都市計画になんらかのインパクトを与えうる演習になるのではないだろうか。　（小泉先生のコメントより編集部作成）

本郷 **Theme A: Inner City** インナーシティ
Re-Design of Residential Inner City with Historic and Cultural Resources　都心近接住宅系市街地の歴史的文化的資源を活用したリ・デザイン

西東京 **Theme B: Sprawled Urban Area** スプロール市街地
Shaping EcoDistricts in TokyoSuburbs　東京郊外におけるエコディストリクト形成

高島平 **Theme C: Urban Housing Complex** 大規模集合住宅
Regeneration of a Large-Scale Urban Housing Complex near Urban Center　都心周辺集合住宅団地のリ・デザイン

総合担当兼本郷演習担当：
小泉秀樹教授
（まちづくり研究室）

演習の総合担当者としての気持ちを教えてください。

演習は、学部よりもむしろ大学院で充実させることが、海外のプランニングスクールと比較しても、また学生の習熟のステップとしても適切だろうと考えていました。しかし、北沢先生が新領域に移ってしばらくし、私が演習委員長の時に、実質大学院演習は凍結されました。いろいろ事情はあったのですが、その後も、私の気持ちの中では、大学院演習を立ち上げ、充実させることが必要との考えは、消えずにありました。

この演習を通して学生に学んで欲しいことは？

東京については、以前は、都市工学からの情報発信や提案が行われていましたが、近年は少なくなってきたとの印象があり、演習を通じて、都市工発で東京のあり方を議論できればと考えています。
また、留学生も多く参加しており、彼らが学ぶ場である東京について、より深く理解をしてもらいたいとの考えもありました。彼らは、東京について、日本人の院生とはまた違った見方をするでしょう。日本人の院生と留学生が、相互に情報共有し、時には意見を闘わせることで、新しい東京のあり方を、彼ら自身で模索し、提案してもらえればと考えています。

本郷台地のへりのため坂が多い

本郷は低層住居が並ぶ

演習担当として伝えたいことは？

来年、2018 年 1 月 17 日に、演習の成果について、共同でかつ公開の講評会を開催する予定です。場合によっては学外で実施するかもしれません。決まり次第告知しますので、都市デザイン研究室の皆さんも、講評会には是非足を運んでいただき、議論に参加ください。

現在も宿として営業する鳳明館

本郷知新。　（M1 岡山）

本郷を選んだ理由は、本郷にどっぷりと浸かってやろうと思ったからです。というのも、人生で初めてのTA(ティーチングアシスタント) をやることになり、その対象エリアが本郷であり、その他にも敬愛してやまない三文字先輩の本郷での活動に少し足を踏み入れたい、そもそも大学院入学なので町のことをよく知らない…。この冬、このような理由という具が沢山入った雑煮 (= 演習) を堪能できたらと思います。
現在は 11 月 1 日の住民の方への計画趣旨説明のための資料を作成しています。本郷は寮や旅館・銭湯が数多くあり、樋口一葉などの文豪が暮らし、学生がキャンパスと行き来した町として知られています。当時とは違った形になると思いますが、ふたつの場を人々が行き交う風景を提案ができたらと思います。本郷にかつてあった銭湯はもうほとんど残っていませんが、演習というコンテンツから本郷にどっぷりと浸かってやろうと思います。

西東京演習担当：
村山顕人准教授
（都市計画研究室）

西東京をどのように捉えているのでしょうか？

宅地と農地が混在するスプロール市街地は、リ・デザインの対象となる東京の既成市街地の 1 つの類型です。従来、こうした市街地は都市計画の失敗として捉えられていましたが、開発圧力が低下し、都市農地の価値が再認識される今、積極的に保全・再生すべき対象として捉え直したいと思いました。ちょうど、私が委員を務める西東京市都市計画審議会でもこのような議論があったので、西東京市を演習の対象とすることにしました。

この演習を通して学生に学んで欲しいことは？

市街化区域内の農地・生産緑地がスプロール市街地の中で果たしている役割を理解した上で、宅地と農地がうまく融合し、新しいエコ・ライフスタイルを可能とする魅力的な市街地のあり方を検討してほしいと思います。現行制度に囚われない創造的な空間的解決策を導くと同時に、それを実現するためにはどのような制度改正が必要かについても考えてほしいです。

市街地の中に突然現れる造園農地

演習担当としての意気込みをお聞かせください。

この演習は、トリノ工科大学との研究・教育交流 "Implementing the United Nations' New Urban Agenda. Universities in action. (UNI-NUA)" にも位置付けられ、東大に在籍する留学生の参加者もいるので、基本的に英語で行います。また、参加者全員で 1 つの成果をまとめるので、進め方自体も議論しながら決めていきます。チャレンジングなことが多い演習ですが、楽しく進めたいと思います。

農地を潰して建てられた、典型的な“ ミニ開発 ”

東京に溢れる緑、でもいずれは消えてしまうかもしれない。　（M1 中戸）

緑を残していけるような提案を。

今までの生活でも今までの都市工学科の課題・演習でも、私は郊外の住宅地という都市様式に縁がありませんでしたし、農業や造園といったものへの実感もありませんでした。今回このスタジオの説明を聞いて、もっとも新鮮に感じたのがこの西東京だったのです。
緑地が徐々に蝕まれるように宅地になっていく様子、また生産緑地という制度そのものが抱える問題など、これまで向き合ってこなかった課題に取り組むこと、また留学生たちと議論し提案を作り上げていくことはきっと今までとは違った難しさを実感しますが、このスタジオを経て少しでも成長できればと思います。

高島平演習担当：
中島直人准教授
（都市デザイン研究室）

なぜ高島平を選んだのですか？

東京における計画的既成市街地の再編はこれからの都市計画の大きな課題である。高島平はそうしたテーマでのケーススタディとして最適であると考えた。また、現在、個人として、研究室としてその再生に関わり始めている地域なので。

団地の足元には広大な敷地が広がる

住民の方自らで整備している花壇

この演習を通して学生に学んで欲しいことは？

大学院演習なので、何か分かりやすいテクニックとか確立した方法論というよりは、こうした市街地が抱えるそれぞれ固有の現実にじっくり向き合い、課題の認識を深めて自分のものとし、課題の解決のための実行力のある提案（とできればその実践）を行いたい。同時に、日本国内のみならず、世界的な研究や実践の潮流、最新の知見等にアクセスし、そこに何かを付け加えようとするモチベーション(ないし姿勢）を高めてほしい。

演習担当としての意気込みをお聞かせください。

私自身、この 1、2 年で高島平によく通うようになりましたが、高島平の「一丁目一番地」（というか、本当の住所は 2 丁目）である UR の団地(賃貸)については、しっかりと見つめる機会はがこれまでありませんでした。大学院生の皆さんと一緒に、現状を把握し、何らかの提案を考えていきたいと思っています。UR の実際のエリアリノベーション、そしてアーバンデザインセンター高島平の活動とも連動させたいので、本気で取り組んでほしいと思います。頑張ろう。

UR の取組の 1 つ、DIY 住宅

得てきたものを実践に。　（M1 但馬）

4 年夏のオムニバス演習でプロムナードのリデザイン、大学院で高島平プロジェクトに参加していた私ですが、今回の演習でも飽きずに高島平を選んでいます。その理由としては、今まで学んできたことをちゃんと還元してデザインするいい機会になると考えたことでした。今回は団地が中心になるということで、UR さんにもご協力いただいています。先日行ったまち歩きでは DIY 物件や無印良品と連携した部屋などを見学したり、管理者の側から団地の現状を教えてもらったりしたことでまた新たな高島平を知ることができました。
「既存建物の配置を変えずにリデザインする」という難しそうなテーマですが、それは高島平のみなさんが普段使っている公共空間をより良くするということになります。今まで高島平に関わる様々な人と関わってきた自分として、どういうことができるのか。これから頑張っていきたいと思います。

秋入学博士紹介特集

Three New Students, Each Has Her Own Way!

新たに３人の女性が、この秋博士課程の学生として都市デザイン研究室に加わりました。三者三様、それぞれが全く異なるバックグラウンドを持つ彼女たちの自己紹介を掲載します。濵田さんは学部時代からずっと都市デザイン研究室に籍を置く生粋の“都市デザイン研学生”、湯澤さんは働きながら博士課程で研究をする、二足の草鞋を履く社会人学生。JIANG さんは重慶大学を卒業後に都市デザイン研究室にやって来た留学生です。西新宿で輪講を持つ湯澤さん、上野プロジェクトに参加する JIANG さんなど、自分の研究だけでなくいろいろな活動に取り組むタフな新入生たち。研究室がより賑やかに、そしてより多様になっていくのではないでしょうか。

10月の研究室会議の終わり、ささやかですが秋入学博士の歓迎会を行いました。

Self Introduction of Newcomers!

濵田 愛

東京大学工学部都市工学科都市計画コース
(2015 年卒業)
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室 (2017 年修了)

修士学生時の研究テーマ

修士研究では、都市部における「職住の混在」のあり方を探求するため、現在でも職住併存の暮らしが継承されている東京都台東区北部の皮革産業集積地を対象に、皮革産業の産業構造と空間特性の関係性や変遷などを調査いたしました。
また研究室プロジェクトでは、佐原・神田・カトマンズプロジェクトに参加しました。実体験が伴わず想像力が追いつかない都市部における空間や営みに対する「なぜ」と、都心居住や都市地場産業に対する憧れがとても強かったのです。

博士課程を通して研究したいこと

博士課程という枠組みに限定できていないかもしれませんが、同じく都市部に対する「なぜ？」は続いていて、「職住の混在」のあり方、生業と一体と成った都市空間・生活が持つ魅力を、引き続き考えていきたいです。また併せて社会構造と都市計画や都市空間との関係という視点も考えていきたいです。

大学院での研究以外に、博士課程で取り組みたいこと

人との関係を大切にすること、自分の言動に責任を持つこと、現場に足を運ぶこと、１つ１つを思考して行動すること、などでしょうか。ウサギにもカメにもなれる (なれない？) ように、地に足をつけて、後戻ったり立ち止まったりしながら、一歩一歩進んでいきたいです。

右ページでは、濵田さんに修士論文について振り返ってもらいました。▶▶▶ そちらもぜひご覧ください。

湯澤 晶子

津田塾大学学芸学部（2001 年卒業）
University of Pennsylvania, School of Design, Department of Landscape Architecture and Regional Planning, MLA（2005 年修了）

修士時代の研究テーマ

オープンスペースは人々の生活にどのように関わってきたか、関われるか。社会にどのような影響を与えてきたか、与えられるか。敷地境界、行政界を跨ぎ、人々の思いをつなぐフレームワークとなりうるか。自然と社会・文化をつなぐ想像力を与える空間となりうるか。といったランドスケープアーキテクトを志した時の思いを元にしたテーマ・コンセプトを、アメリカ国内外のスタジオ設計課題を通して掘り下げました。

博士課程を通して研究したいこと

更新期を迎えた特定街区の有効空地の改修が民間主導でエリア全体の活性化を促し、今日的な公共性を確保する、都市再生の契機となるための課題と方向性について研究したいです。制度の設立経緯や関連事項の変遷、国内外の事例の調査を行う予定。

大学院での研究以外に、博士課程で取り組みたいこと

大学の環境を生かして、自分の考える都市・ランドスケープ・パブリックスペースについて見解がまとめられるよう広く勉強したいです。時間が許せば、学生さんとデザインコンペなどに参加できたら面白いかとも思います。仕事で担当したシンガポールのコンペがとても面白かったので、シンガポールになんらか関われたらとも思います。

＊社会人としてのご経歴
2005 年　WEST8 Landscape Architecture and Urban Design, the Netherlands
2006 年 - 現在　株式会社日本設計 ランドスケープ・土木設計部

Min JIANG

Chongqing University/Bachelor of Architecture
（graduated in 2014）
Chongqing University/Master of Engineering
（graduated in 2017）
Hokkaido University/Special Research Student
（2016.04 -2016.09）

Research Theme for Master Degree

Livable Cities・Livable Streets: Research on Humanism Urban Design Theory and Practice of Allan B. Jacobs

Allan B. Jacobs (Dec. 29, 1929-) played a pivotal role in fields of urban planning and urban design in the late-19th-century America.
According to Jacobs' 3 roles, namely pioneer, practitioner and educator, my research first delineated his ideas and contribution in 3 aspects as theory research, program practice and subject development. The research then analyzed Jacobs' status and contribution in both longitudinal and latitudinal aspects with the development and evolution of urban design in the 20th century and a comparative study between Jacobs and major representatives in urban design field between 1960s and 1990s.

Research Propose for Ph.D. Degree

Social Capital and Urban Regeneration in High-density Cities:from the Perspective of Public Open Space Evolution - a case study in Central Chongqing, China

There has been growing academic, policy and popular interest in the effects of urban regeneration on everyday social life and cultural practices that constitute Public Open Space (POS) in China.
Research will offer new perspectives into urban regeneration by focusing on social capital and POS evolution in Chinese cities. The specific goals will be establishment of new circulation within urban regeneration, social capital and POS, which is utilising social capital to optimizing POS, then sending feedback to urban regeneration and mutual positive influence between urban regeneration and social capital. In doing so, it will make a contribution to debates within Urban Planning, Urban Design, Sociology and disciplines across the social sciences, generating theoretical insights and qualitative research findings that can contribute to, and impact on popular debate, public policy and practice with regards to the regeneration of POS in urban China.

Plans outside the University

Since Tokyo is a spectacular city with all kinds of public open space, I would like to carry out a series of public space observation. After reading those fascinating books on urban study, like Looking at Cities, The Boulevard Book, How to Study Public Life, and so on, I have always been interested to exercise the methods they introduced. Therefore, I plan to spend three or four days a month to visit and carry out small surveys in carefully or casually chosen architectures and places and take notes about analysis of their design, users' behaviors and so on. In order to make it easier to carry on, the notes may stay short and concise instead of so long or so detailed. I think it will also be an interesting way for me to learn about and update my recognition of Tokyo. I am looking forward to finding out something new and exciting.

修論を終えて　- 今、研究を振り返る -

The story of the master's thesis.

夏の暑さが厳しさを増す７月、修士２年だった濵田さんが修論を提出しました。そして９月末からは晴れて博士課程に進学、また新たなステージに進まれています。そんな濵田さんに 10 月の終わり、修士研究を振り返っていただきました。修論を書き上げてから早３ヶ月、少し時間が経ってみてわかることや、これから論文を進めていく修士課程の学生へのメッセージなど、色々なお話をインタビューで伺うことができました。

濵田愛　平成 29 年度修士論文

『台東区北部皮革産業集積地の都市空間特性に関する研究
- 製造空間の商業化と職住混在空間の変容に着目して -』

既成市街地の持続可能な産業都市空間形成に向け、近世から伝統的に職住混在空間が維持・形成されてきた都市部の小規模地場産業集積地域である台東区北部の皮革産業集積地に着目。産業構造の視点から現代の職住混在型の空間の実態とその形成プロセスを明らかにすることを目的とした。
東京都の皮革関連産業の歴史的な立地移動というマクロレベルの変遷から、対象地である台東区北部の比較関連産業の歴史的立地変遷を捉え、地域産業の空間構造を明らかにし、街区レベル・敷地建物レベルのミクロスケールの空間変容を分析、エリアごとの空間特性を抽出した。具体的には、対象地域北部では建物が低層・木造で職住が並存しているが、南部では高層・非木造が多く職住が分離（＝用途純化）し生活要素が少ないことが特徴にあげられる。
以上より、対象地には広域的・地域的に産業構造が変遷する過程において各々の更新の特性により、北部には「職住並存型混在空間」が、南部には「用途純化型混在空間」が形成されていったことが明らかになった。

修論の内容・やりたかったことを教えてください。

東京都市部の地場産業が集積している地域で、なおかつ職住が混在している地域を分析することで、都市部における混在空間の理解が深まるのではないか？と言う視点を主張した論文を目指しました。具体的な場所としては台東区の北部。その地域の特別な呼称は特に存在しないようですが、浅草と南千住の間にあるエリアをケーススタディの対象地としました。
研究の新規性や独自性に関しては、このような混在地域の議論の中で、産業構造と重ね合わせた分析を行うことで独自性を見出していきました。また、この台東区北部エリアの空間的な分析というものもなかったから、ここを分析し、データとして整理するということもやりたいことの一つでした。

どのようにして修論を進めていったのでしょうか。

地域との繋がりが元からあったわけではなかったので、１年間くらいは現地へのコンタクトやインタビューが主な活動でした。オープン・ファクトリーなどに参加してつながりを持ったり、先生から紹介していただいたり。あるいは事業者さんなどにお願いの電話をしたり、行政機関にもやりたいことを伝えたりして、そこからまた事業者さんを紹介してもらうなど、連鎖的に関係をつなぎつなぎ辿って行きました。
修論の期限が近づいて来た４月から６月にかけてはひたすらデータの収集作業がメインでした。現地調査をして、事業所を地図にひたすらプロットして。そのようにして集めたデータをもとに、最後に論文を構成していきました。

地域に関わっていく中で、大変だったことや予想と違ったことはありましたか。

地域に入っていくことは、大変というよりはやはり面白いことの方が多かったです。その前に本や論文など座学で知識は得ていたけれど、やっぱり実際に現地に入って話を聞いたり現場を見ると、いろいろな発見がありました。自分の知らないことを知っている人たちに話をたくさん聞いて「やっぱりこうなってるんだ」とか「これは思っていたのと違っていたんだ」とか。特に、オープンファクトリーのイベントに参加して、実際に工場の中に入れてもらった時が一番印象深かったです。この地域の職住混在のあり方の特徴でもあるのだけれど、何も知らなかったら普通のオフィスビルだと思って通り過ぎてしまうような建物の２階で、実は機械が動いていたり職人さんが作業をしていたりして工業が回っている。そういうことが実感できました。
ただ、最後の現地調査は結構大変でした。これは夏提出ならではの体験だけれど（笑）、梅雨時に雨でびしょ濡れになって木陰でメモをとったり、でも晴れた日はとても暑かったり。１人で一日中まちを回っているときには「何してるの」とか聞かれたりもして。そんなとき、事情を話すと応援してくれるまちの方も多くて、ついでに家の話や商売の話をしてくれたりしました。

この場所の魅力について教えてください。

大都市東京の真ん中にある、このような地場産業の繋がりと合わせた空間の使われ方が、新鮮に映ったのだと思います。家の２階で工場を稼働させながら普通に日常の都市生活を送っている、そして外部から見ただけではそれがわからない、そんな空間と生活の関係性が面白いと感じました。また、産業をベースとした人と人の繋がりがまだ目に見える形で残っているということも、素敵だなと思いました。
ただ、対象地から入って論文を書き上げて行った側面もあったので、どのように自分の感じた魅力を論としてまとめていくか、その構成がかなり難しく、迷った部分でもありました。

これから論文を書く修士課程の方へのアドバイスをお願いします。

私は途中から自信がなくなってきて、周りに相談したり議論を持ちかけるのが最後の方はできなくなってしまったけれど、やっぱりそれはあまりおすすめはしません。せっかく先生や先輩がたくさんいるのだから、できればどんどん相談に行けたらよかったなと思います。

修論に関して、今後の目標などはあるでしょうか。

今回の論文では働いている人と住んでいる人の違いなど調べきれなかったところや、まだ十分に地域に入りきれなかったところ、考察を深めきれなかったところが多くあると自覚しています。今後も他の周辺地域などと併せて考えていけたらいいなと思っています。■

インタビューを終えて：
印象に残っているのは、書き上げた論文を濵田さん自ら製本 (しかもカラーで綺麗に！) して、対象とした地域にそのいくつかを配っていたというお話。地域に入って研究することの多い研究室ですが、お世話になった地域へ自分の書き上げた論文で何かしら還元できるような、そんな意味のある論文をいずれかけたらいいなと思えた時間でした。ここではとても書ききれないほど長いあいだインタビューに答えてくださった濵田さん、ありがとうございました。(中戸)

information

Archives - 10 月の web 記事

10.01　高島平 PJ、展示しました！
９月末に行われたプロムナードでの社会実験。これまでの成果を３つの方法でお披露目しました。(M2 田中)

10.09　三国「住まいの将来相談会」
住民の皆さんと、まちの将来について本気で考えたワークショップ。学ぶべきことはまだ多そうです。(M2 松田)

10.21　内子現地調査
台風迫る中で訪れた内子でしたが、祭りや文化・郷土史の調査は非常に有意義なものとなりました。(M1 中戸)

10.23　高島平ヘリテージミーティング
世代交代した高島平 PJ。これまでの成果を元に、これからは高島平形成の謎へ踏み込んでいきます。(M1 但馬)

Project Headlines -PJ 近況早わかり -

Web 記事もご覧ください。http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/▸

Hey listen, - ちょっと聞いて！

佐原　秋の大祭が行われました！

雨天のため住民の方々はずぶ濡れになりながらの山車曳き廻しでした。また、祭りに合わせて佐原高校生の建物調査展示が実施。高校生制作のかるたで子供たちと遊ぶコーナーもありました。(神谷)

上野 PJ　不忍池の使われ方を探る

不忍池を軸に上野エリアの構想を考えていますが、今は不忍池周辺の人の動きやアクティビティの実態を把握するために、ゲート調査・滞留調査・追跡調査・交通量調査を行っています。(原田)

11 月の予定

11/7　第８回研究室会議
11/8　上野 PJ 委員会
11/11 浦安住民向け報告会
11/29 第９回研究室会議

編集後記

タフに生きようと思っている帯日頃ですが、十月に入ってからというもの急な寒暖差と乾燥にやられ体調を崩しがちでした。夏のように忙しなく日々を過ごすのもいいのですが、いろいろなものをつまみ食いしながら結局一番美味しいところに触れないままに終わってしまうよりは、一つ一つに腰を据えてちゃんと完食するような、落ち着いて余裕のある生活がしたい。自分のベッドで寝込みながらそんなことを考える十月の静かな夜を過ごしました。（中戸）